日本海事史学会 第399回 例会（Web例会#18）

精読・船長日記（ふなおさ）
――50種の写本から見えてくるもの

参加費無料

■講師：春名（はるな） 徹（あきら）

2022年4月23日（土）14:00～16:00　Zoomにて開催（ルームオープン 13:30）

尾張の廻船督乗丸は文化10年（1813）初冬に漂流、同12年春にアメリカ船にカリフォルニア沖で救助されるまで、「海上漂流484日」という世界の海事史上最長となる壮絶な経験をした。

『船長日記』は船頭重吉による経験を三河新城藩の池田寛親がまとめた記録である。それは多様な読みを可能とする漂流記である。この物語の力は語り手（船頭重吉）の経験の壮絶さによるのか、あるいは記録者（池田寛親）の力量によるのか、読者の興味をひくのは海上経験の過酷さなのか、送還にあたったロシア人の極東での動向なのか？

現存する写本およそ50種を読んでみると、テキスト数種のヴァリエーション、記録の継承の型、写本を共有しようという衝動などが見えてくる。

《船長日記》というテキストを共有したいという衝動は、幕末の識字率の向上を背景に、在村蘭学、国学と結びつき、幕末型の図書館運動への展望をも内包しているのである。

船長日記［名古屋市博本］（部分）

■春名 徹（はるな あきら）日本海事史学会会員

南島史学会会員。東京大学文学部東洋史学会卒。東アジアの海域史、特に漂流・漂着に関心がある。近著は『文明開化に抵抗した男　佐田介石 1818-1882』（藤原書店）。専攻とは全然、関係ない。

●関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。メールでお申し込みください。

※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には4月20日（水）までにご連絡いたします。

●会員にはメールでご案内をお送りしています。

メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切：2022年4月19日（火）正午（12:00）

■申込先：kaijishi.web@gmail.com（担当：大野）

メールの件名を「日本海事史学会Web例会申し込み（非会員）」として、本文にはお名前をお書きください。

［今後の例会 開催予定日：2022年5月28日（土）］

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行（年1回）／総会（年1回）・例会（8月と総会開催月を除く年10回）など

日本海事史学会 The Japan Society for Nautical Research

ご入会随時受付中　https://kaijishi.jp/

〒104-0043　東京都中央区湊2丁目12番6号 湊SYビル3F 日本海事広報協会気付　メール：kaijishi.info@gmail.com